

日本の伝統芸能がタイで大反響。  
根底に流れる共通性が日タイを近づけた。

**NPO法人 日本・アジア芸術協会は日本舞踊と邦楽のグループをタイへ派遣し、タイの子どもたちに日本の伝統芸能を伝えるというユニークなワークショップを実施した。ステージは熱狂的な声援を受けたが、普段とは違う日本の姿にタイの人々は一様に驚いたようだ。**

流派の壁を越えて結成された  
邦楽ユニットをタイに派遣。

NPO法人 日本・アジア芸術協会は1986年に日タイ芸術協会として設立以来、主にタイ舞踊を通じて新しい舞踊芸術の発展及び両国の友好促進を図ってきた。1997年には日本・アジア芸術協会と改名し、アジアの舞踊家との交流活動を開始した。現在は、銀座にアジアカルチャーセンターを設置し、恒常的にアジア各国の文化交流を図っている。

今回のイベントは、日メコン交流年2009の認定事業として、外務省やタイ王国芸術局の協力を受け、2009年1月21日より24日にかけて行われた。日本舞踊と邦楽のグループ「和楽You」をタイ王国バンコク市へ派遣し、日本とタイの伝統文化の比較ワークショップと公演を行なうというものだ。

協会理事の庄司真吾さんは「協会ではこれまでもタイの青少年との文化交流を多数企

画してきましたが、今回はどのような反響になるのか、「和楽You」の芸術的な魅力がどこまで伝わるのか、とても楽しみにしていました」と語る。

「和楽You」は同協会がプロデュースする邦楽ユニットで、別表のように日本舞踊、長唄、囃子、箏、三味線と多様な芸能ジャンルから若手メンバーが集まっている。

なにかとときたりの多い世界なので、流派を越えて集うこと自体珍しい。邦楽の世界でも世界との文化交流の意義が再認識されている証しだといえるだろう。

いつもの日本のイメージと伝統芸能のギャップに  
タイの若者も大興奮した。

メインとなるワークショップ・公演は、1月23日タイ国立図書館ワチラーウータルソーン・ホールで行われた。

オープニングセレモニーのあと、まず「日本舞踊とタイ舞踊の特徴や違い」の講演が行われた。お辞儀のしかた、歩き方、拍子、手の使い方などの基礎から、「越後獅子」「水仙丹前」を題材にした動きや奏法の歴史の講義、さらに「都の春」などを演奏した。一方、タイ側は仮面劇の基本的な動作、民俗舞踊「四つの地方の踊り」、タイ演奏「カメンサイヨーク」などを講義した。

どちらかというと派手なタイ舞踊と日本舞踊とでは大きな違いのあることは想像に難くないが、驚いたことに共通点も多いことがわかってくる。「和楽You」リーダーの花

柳貴比さんは次のように語る。

「やはりシルクロードという同じ原点から出発していますし、特に日本もタイも農耕民族ですから、舞踊も音楽も共通点が多いのです。息づかいとか間の取り方がほとんど同じですね」

プログラムは講演を交えながら日本とタイの演奏や舞踊を交互に演じる形で進んでいった。タイ側は王立舞踊団や王立舞踊学校学生が中心だが、日常イメージしている日本と、目の前で展開されている伝統芸能のギャップにとまどいながらも、優雅な衣裳や、立ち居振る舞いにすっかり魅了されたようで、会場は大興奮となり、誰もが興味津々の面持ちで見守っていた。

さらに、お互いの芸能のワークショップを行い、日本の



「和楽You」参加メンバー

- 秋元 加代子……プロデュース
- 花柳 貴比……日本舞踊（リーダー）
- 海津 紫乃……長唄
- 望月 太意樹……囃子
- 佐々木千香能……箏
- 杵屋 三澄那……三味線

担当者より



おかげさまで大盛況の  
イベントになりました。

NPO法人  
日本・アジア芸術協会 理事長  
秋元加代子さん

最小限のユニットでしたが、大盛況となり、所期の目的を果たすことができました。当日やその後の反響を見ても、日タイの交流に寄与することができたと自負していますが、AJOSCの助成がなければ間違いなく実現できないイベントでした。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

「さくらさくら」をタイが演奏し、日本側がタイの楽曲「ラムセンドゥワン」を演奏する形で交流を深め、最後は合同演奏を行って幕を閉じた。

イベントに同行した秋元加代子 理事長は「関係者の皆様のご協力により、大成功を取めることができました。タイの方からは、このような交流を定期的に続けたいと言われましたし、我々も学ぶ点が多々ありました。次代を担うタイの若者たちに日本の伝統文化の良さを伝えることができ、またこちらタイの素晴らしい伝統文化を体験できたことは、大変有意義な文化交流であったと思います」と語る。

同協会のアジアンカルチャーセンターでは不定期だが、「和楽You」の演奏を行っている。興味がある方は立ち寄ってみるといいだろう。日本人が見ても心が洗われるようなステージである。



参加したタイと日本のメンバー



開催したワークショップでは、日本舞踊の基礎や歴史を講義